



## 阪神・淡路大震災をのこす

佐々木, 和子

---

**(Citation)**

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 18:14-15

**(Issue Date)**

2020-02-02

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012138>



## 阪神・淡路大震災をのこす

神戸大学地域連携推進室

佐々木和子

### 1. 阪神・淡路大震災と資料保存

#### ◇歴史資料保全情報ネットワーク（史料ネット） ボランティア元年

- 被災史料の救出 事務局：尼崎神戸大人文学研究科
- 災害（震災）資料の保存 = 同時代史の資料保存 … 意識的に収集・保存  
= わが国初

- 1995年3月 震災・活動記録室の誕生
- 5月 神戸大学附属図書館 阪神・淡路大震災関係資料を網羅的に収集
- 6月 兵庫県復興計画

- 財) 21世紀ひょうご創造協会（兵庫県外郭団体）の取り組みに協力
- 第1回震災資料の保存と編さんに関する研究会 1996年2月23日
- 第2回震災資料の保存と編さんに関する研究会 1996年10月13日



震災資料嘱託員による収集・保存活動へ（1996年12月）

#### ◇何を残すか

- ・「震災・復興に関する資料・記録」 = 「震災資料」へ
- ・一次資料から収集 — 分析・加工されていない資料
- = 現代史の資料（出来事と同時に収集・保存）

#### ① 財) 21世紀ひょうご創造協会: 1995年10月～

- ・内容:
  - 1、今回の地震の実態
  - 2、地震被害の実態
  - 3、地震への対応の実態
  - 4、被災者の生活実態
  - 5、復興計画・事業の経過などを示す資料・記録類

#### ・形態の多様性

- ビラ・ちらし、図書、一般刊行物、冊子、壁新聞、CD-ROM
- 写真、ビデオ、その他 ← 情報媒体の多様化

#### ② 岩崎信彦氏（当時 神戸大学文学部教授・社会学）の指摘：1996年2月

- ① その地区で人々がどのように死んでいったか 被災状況の把握

住宅被害・火災状況・死亡者についての行政や建築学会などの調査資料

- |  |       |
|--|-------|
| ②避難、救援、救助はどのようなであったのか<br>住民の手記、ボランティアや避難所の記録 | 緊急対応  |
| ③仮設住宅街での人々の生活についての総合的把握                      | 応急対応  |
| ③+ライフライン、鉄道、幹線道路等                            | 復旧    |
| ④住宅や生活再建、復興まちづくりについての調査                      | 復旧・復興 |
| ⑤震災直後の写真、ビデオ、インタビュー調査                        |       |

### ③兵庫県による震災資料調査事業 : 2000年6月

調査先・作成者キーワード

個人 (1 被災地の個人、2 被災地外の個人、復興公営、避難所、仮設住宅は除く) / 復興  
公営住宅 (3 居住者、4 自治会、5 その他) / ボランティア・支援団体・宗教団体等 (6 ボ  
ランティア・支援団体、7 宗教団体、8 その他) / まちづくり協議会・コミュニティ組織  
(9 まちづくり協議会、10 住宅再建組合等、11 自治会・町内会等、12 その他) / 事業所  
(企業) (13 交通機関、14 ガス・電気・電話、15 その他) / 労働組合・任意団体 (16 労  
働組合、17 任意団体) / 教育・研究機関 (保育所を含む、18 保育所・幼稚園、19 小・中  
学校、20 高等学校、21 大学 (研究者を含む)、22 その他) / マスメディア (23 新聞社、  
24 出版社、25 放送関係、26 その他 (映画など)) / 行政・外郭団体 (27 保健・環境・福  
祉、28 住宅関連、29 道路、水道等、30 その他) / 避難所 (31 避難者、32 施設管理者、  
33 避難所自治会、34 その他) / 仮設住宅 (35 居住者、36 仮設自治会・ふれあいセンタ  
ー等、37 その他) / その他

← 嘱託専門員+ 阪神淡路大震災記念協会内部の研究会での議論

- ・ 1996 年以來の震災資料収集事業の視点  
被災者・所蔵者の意識 = “まだ” への対応 … 「調査事業」へ
- ・ 避難所→仮設住宅→復興公営住宅以外の被災者の視点
- ・ 資料利用側の立場から調査対象を検討

### ◇今後の課題

- ・ 現代資料の保存 — 大量にある資料の整理方法
- ・ デジタルアーカイブと現物資料
- ・ 記録に残らない出来事の継承 — 人々の記憶